

地域づくり ～ロードマップ実行に当たっての視点・課題～

<本WGの特性など地域づくり全般の基本的視点>

- 本WGのロードマップの対策・施策を全国津々浦々に広げながら実現していくには、**特に長期間を要する**ため、一定の柔軟性を持たせながら、粘り強く取り組む必要。
- それぞれの**地域が持つ多様なポテンシャル**を発揮するには、**地域に密着した詳細な自然的社会的情報**に基づいて、きめ細かな対策・施策を検討・実施していく必要。
- **中長期的な将来人口や年齢構成、ライフスタイルやワークスタイルの変化**による影響を見据えた対策・施策が必要。また、低炭素化のためには、住民のライフスタイルやワークスタイル自体を低炭素型に変革させ、最大限対策の効果を発揮させる必要。

<土地利用変革や公共交通の整備・利用促進>

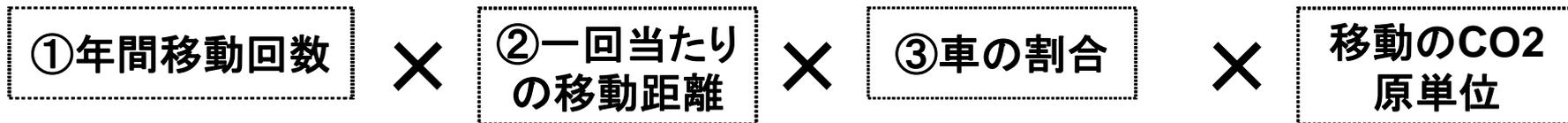
- 自動車走行量の削減については、**公共交通や道路網、地形、文化性などの特性**に応じて地域ごとに削減ポテンシャルが異なるため、**地域ごとの対策・施策のメリハリ**が必要。
- 公共交通を軸とした市街地集約化は容易ではなく、より具体的な方法の検討が必要。
- 公共交通の利用等の交通行動は、ガソリン等のエネルギーコスト負担による影響も大きく、**自動車・道路利用を含めた料金システムを通じたインセンティブ**の付与が有効。
- 公共交通が地域の基幹交通になっていくことに鑑みれば、その整備・運営を支えて行くに当たっては、**利用者や市民等の参加を得るなど多様な手法**があり得る。

<低炭素街区の整備>

- 2050年までの地域の更新の可能性を考えると、新規の市街地・街区整備だけでなく、**既成市街地や既成街区における低炭素化**を進めていくことが必要。
- 再生可能エネルギーや都市未利用熱の利用など要素技術の最大限の活用と**そのための条件整備**が必要。

コンパクトシティ理想像に向けた目標・指標の構造

最終目標:「旅客が車で移動する時に出るCO2排出量」は、どこまで抑えればよいか？
目標指標:「旅客が車で移動する量(①×②×③)」は、どこまで抑えればよいか？



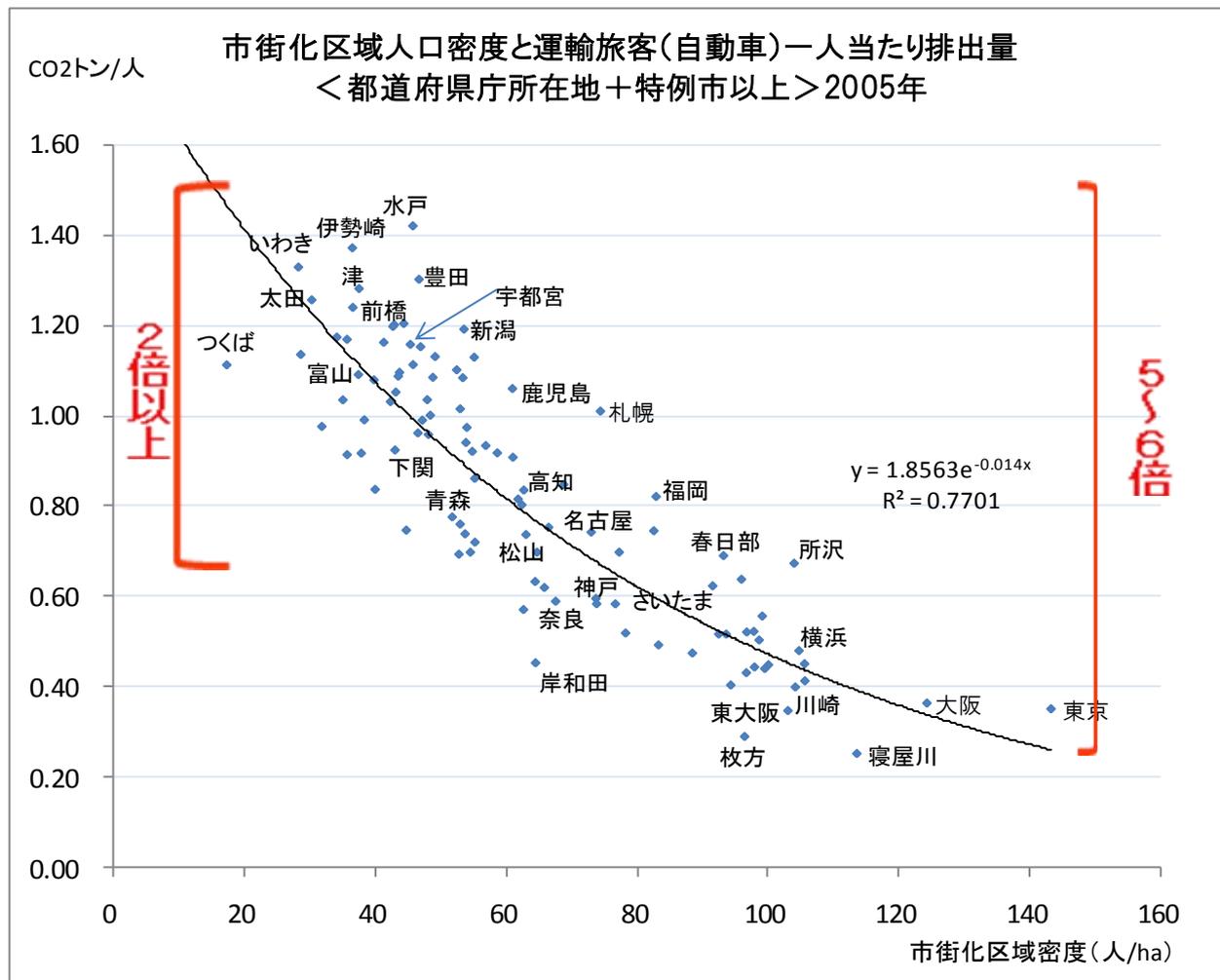
目標指標: 旅客一人当たり自動車走行量 = 旅客が車で移動する量(①×②×③)

【自動車走行量削減目標の設定の際の注意点】

- 太陽光や風力などの低炭素電源もバイオ燃料も無限ではなく、その容量以上に自動車を利用する場合には、二酸化炭素を排出する電気や燃料を使う必要が出てくる。
- このため、自動車走行量の削減目標は、低炭素電源やバイオ燃料の使用量が容量を超えて燃費(CO2原単位)のほうの目標が達成できなくなるならないようなレベルに設定される必要がある。

市街化区域人口密度と旅客一人当たりの自動車走行量

人口密度が高い都市は、旅客一人当たりの自動車走行量＝CO2排出量が相対的に少ない。

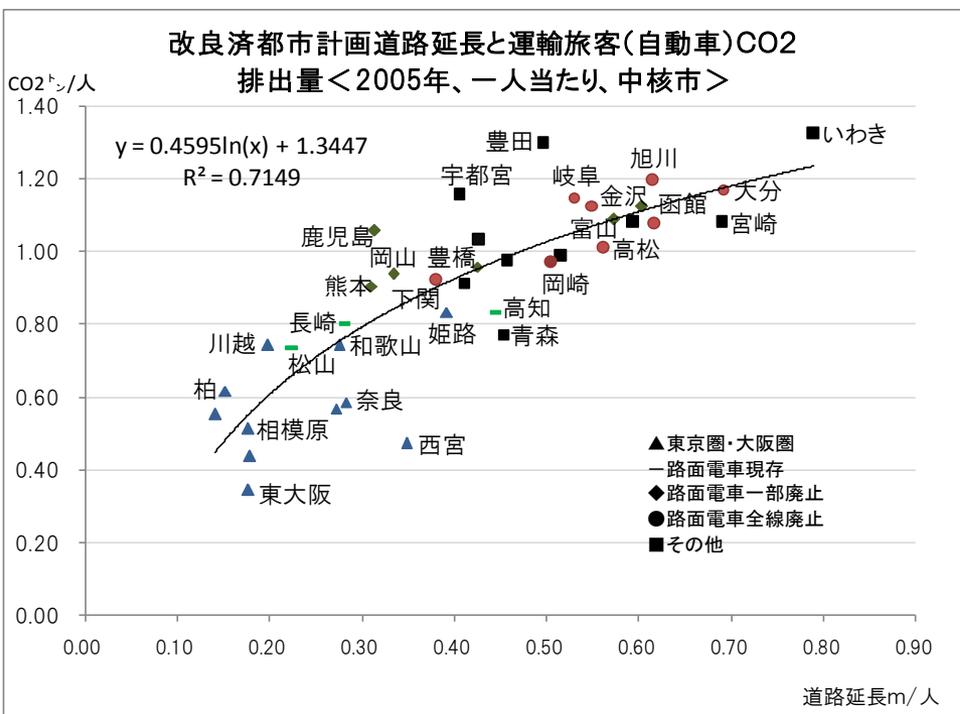
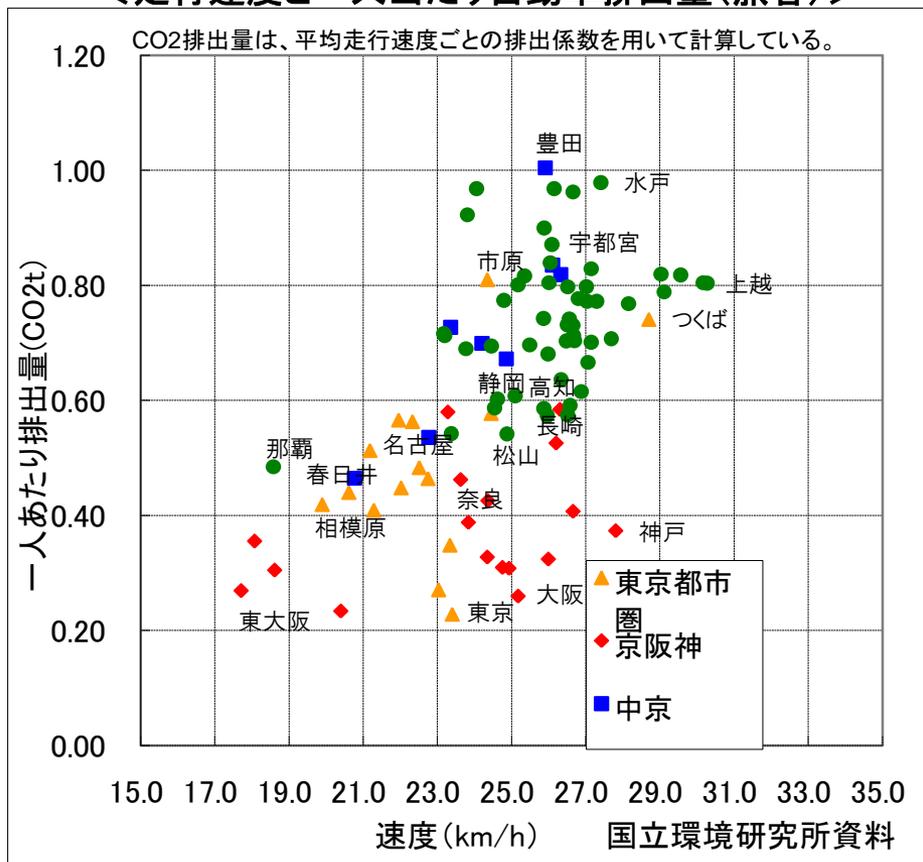


国立環境研究所・環境省資料、都市計画年報より作成

道路のサービスレベルと旅客一人当たりの自動車走行量

道路延長の長さ、旅客一人当たりの自動車走行量＝CO2排出量は比例する傾向にある。
 走行速度の速さと、旅客一人当たりの自動車走行量＝CO2排出量は比例する傾向にある。
 公共交通（路面電車含む）が整備された都市は、これらがいずれも比較的小さい。

＜走行速度と一人当たり自動車排出量(旅客)＞



地域づくり（農山村地域）

◇現状と課題

- 農山村は、森林吸収や農業分野での排出削減等を通じて地球温暖化対策に貢献している。今後さらにその貢献を効率的に拡げていくには、分析すべき**基礎的データの不足の解消**、農山村が有する**国土・自然環境保全等の多面的機能の評価**を行っていく必要がある。
- 農山村では、**物的・制度的インフラの不足、過疎化・高齢化、域内産業の競争力の低下、労働力不足が深刻化**し、温暖化対策・施策推進の障壁にもなっているため、その振興（農林業の復興）の観点が必要。
- 農山村は吸収源として期待されるが、**今後森林の成熟化に伴い吸収量は低下**していく見込み。バイオマスの有効利用は極めて重要であるが、回収の困難さや発生量の季節変動等に留意が必要。**太陽光や太陽熱、風力、小水力等、その他の再生可能エネルギーの供給源としてのポテンシャル**が都市部と比較して大きく、その積極的な活用が必要。

◇低炭素社会構築に向けてのキーコンセプト

- **農山村のゼロカーボン化**（吸収源を含めると**カーボンマイナス**）
- **農山村の振興**（農林業の復興）に伴うバイオマスの供給と利用の促進
- **都市との連携**による温暖化対策の推進（カーボン・オフセットや地産地消・旬産旬消等）
- 農山村全体の**「見える化」**、国土・自然環境保全等の**多様な価値の評価**と最大化

◇長期・中期のための主要な対策の目標

- 中期 総ての地域で**ゼロカーボン地域計画（社会システムの変革、排出削減の徹底、バイオマス資源・再生可能エネルギーの活用、吸収源の活用推進）**を策定・公表。
- 長期 総ての地域でゼロカーボン地域計画の達成及び多面的機能を含めた地域評価の公表。